

あとから来る者のために  
坂村 真民  
あとから来る者のために  
田畑を耕し  
種を用意しておくのだ  
山を  
川を  
海を  
きれいにしておくのだ  
ああ  
あとから来る者のために  
苦勞をし  
我慢をし  
みなそれぞれ力を傾けるのだ  
あとからあとから続いてくる  
あの可愛い者たちのために  
みなそれぞれ自分ができる  
なにかをしてゆくののだ

# U-net通信

2014年1月  
Vol.78

発行:地球環境・共生ネットワーク 〒105-0014 東京都港区芝2丁目6番3号三宅ビル4F TEL:03-5427-2348 FAX:03-5427-5890 http://www.unet.or.jp 編集人:大山正治/発行人:比嘉照夫



## EMによる国づくり

新年を迎えるにあたり、比嘉照夫理事長から昨年度のU-ネットの活動実績の総評とEMとの望ましい接し方について、メッセージをいただきました。

会員の皆様方の新たな励みと行動指針としていただきたく、ここに掲載いたします。

### 謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

U-ネット発足16年目に入りました。昨年はU-ネットの行動指針「あとから来る者のために」を徹底し、会員の皆様の独創的な活動をより積極的に支援し、名実ともに国を変えるNPOとして全力投球で事に当るという方針で活動を行ない、会員の皆様をはじめ、多数の関係者の協力を得て数々の成果を上げることができました。

理事長 比嘉照夫



### EMの社会化

U-ネットの主要年間行事は大分県が次年度に変更になった以外は、すべて計画通りに行われ、前後の所要日数を加えると40日内外の多忙な1年となりました。同時にU-net通信や善循環の輪通信も多様な最新の情報が満載されるようになり、EMの社会化の大きな力となりました。

### 東京湾の浄化達成

8年前にスタートした日本橋川浄化プロジェクトは、日本橋川を遊覧船が行き交う川に変身させたばかりでなく、東京湾の浄化も達成し、更には、東京湾にも様々な奇跡を引き起こしています。東京湾には、すでに巨大な海草とサンゴのジャングルが出来ており、多摩川をはじめ、荒川や江戸川や鶴見川など東京湾に面するすべての河川に、前代未聞のアユの大群が遡上するようになりました。干潟は潮干狩りの人々で賑わっており、シジミの漁業権が復活したり、

江戸川区では50年ぶりに海水浴が出来るようになりました。気が付いてみると、いつの間にか、江戸前の漁場は完全に復活していたのです。

日本橋川から投入されたEM活性液は、累計で3,000トン余、東京湾の東入口に当る館山市の認定NPO法人 安房の海を守り育む会の投入量が累計で500トン余、その他、荒川流域や川崎・横浜・横須賀の三浦半島沿岸のEM活動も加わり推計で4,500トン余のEMが東京湾に流入したことになります。

### 放射能汚染対策

福島におけるEM災害復興支援プロジェクトも更に拡がり、EMを徹底して活用することにより、居住地域における放射能汚染対策は万全となる事も再確認されました。

### 国会に「有用微生物利活用推進議員連盟」が発足

このような確たる成果を受け、12月3日に超党派

(次ページに続く)

の「有用微生物利活用推進議員連盟」が発足しました。会長は野田毅氏(自民党税制調査会会長・熊本)、幹事長は平井卓也氏(香川)、事務局責任担当は当 U-ネット発足当時からの運営委員である高橋比奈子氏(岩手)と決まりました。現在の会員数は 50 余人ですが今年度は 100~150 人位になる見通しです。U-ネット活動に理解をいただける国会議員に 1 人でも多く参加してもらい、EM による国づくりを国政レベルで推進できる議員連盟になることを期待しています。

すでにスタートした S-E M 研究会プロジェクト(清掃関連企業による EM の活用)、TPP 対応の畜産プロジェクト並びに環境教育プロジェクトも具体的な成果が上がり始めていますので、U-net 通信等で紹介する予定です。

EM は本質的に楽しみや喜びを見つける力があり、そのレベルを超越すると楽しみや喜びを創造し、独創的人生を楽しむ潜在力を引き出してくれます。会員皆様の更なる EM 力の研鑽を願っています。



## U-ネット 主要年間行事計画

2月22日(土)	U-ネット総会
3月22日(土)	善循環の輪・和歌山南部の集い
4月26日(土)	善循環の輪・岡山西部の集い
5月17日(土)	善循環の輪・茨城の集い
5月18日(日)	世話人講座(関東甲信越地区)
6月21日(土)	善循環の輪・鹿児島中部の集い
6月22日(日)	世話人講座(九州沖縄地区)
7月21日(月・祝)	第5回EMの日 全国一斉EM団子活性液投入
8月17日(日)	比嘉教授講演会(長野県諏訪市)
8月30日(土)	善循環の輪・秋田北部の集い
8月31日(日)	世話人講座(北海道東北地区)
9月1日(月)	農業勉強会(宮城県 鈴木有機農園)
9月27日(土)	善循環の輪・岐阜県の集い
9月28日(日)	世話人講座(東海北陸地区)
11月1日(土)	善循環の輪・愛媛の集い
11月2日(日)	世話人講座(四国地区)
11月8日(土)	善循環の輪・兵庫中部の集い
11月9日(日)	世話人講座(近畿中国地区)
11月22日(土)	第3回 環境フォーラム (福島県福島市)
12月6日(土)	善循環の輪・大分県の集い



## 「EM生活セミナー」 日程のご案内

**NEW** 従来の「健康生活創造セミナー」が、更に充実した内容で「EM生活セミナー」としてスタートします。  
(お問い合わせ先：U-ネット事務局)

2月11日(火・祝)	愛知県名古屋市
5月24日(土)	東京都千代田区
6月15日(日)	宮城県仙台市
8月23日(土)	北海道札幌市
10月19日(日)	大阪府大阪市
12月7日(日)	福岡県福岡市



## information 事務局からのお知らせ

### ■ U-ネット年次通常総会のご案内

日時:平成 26 年 2 月 22 日(土)

13:00~17:30(終了後、交流会)

会場:芝公園フロントタワー 2 階

平成 25 年度正会員の皆様には、2 月初旬にご案内(総会議案)を郵送いたします。

### ■ 訂正とお詫び

2013 年 11 月号 (Vol.77) P4【たてやま「川と海」再生プロジェクト始動】第 3 段落 1 行目の「200L(4 基)」との記載は、正しくは「400L(4 基)」です。お詫びして訂正いたします。



# 環境教育の充実強化を！

取材／大山

## 環境学習ネットワークを継承して強化する体制の構築

平成14年に「国連持続可能な教育のための10年(ESD)」が制定された。これは世界的に環境教育を進めることの重要性を示した条約であるが、U-ネットの比嘉照夫理事長も「幸福度の高い社会」を実現するためには、環境教育の重要性を常々唱えている。具体的には次の6項目である。①自分で食べるものは自分でつくれる。②病気になるための生き方ができる。③身の回りに起こる環境問題を解決できる。④生活の中で自己管理能力がある。⑤人間関係をつくる能力がある。⑥学ぶことが好きになる。

これらに呼応する形で組織されたのが環境学習ネットワーク(E L-net)であり、創設以来、学校での環境教育教材として使用する環境学習資料の提供や学校



▲EMボカシを作る栃木県足利市立葉鹿小学校の児童たち

プール清掃の実践普及活動を中心に活動を進めてきた。

U-ネットを通じて平成22年から25年10月までの間に、「明日からできるEM環境学習」など環境学習資料を約500の小中学校へ約25,000冊を提供してきた。また、EMでのプール清掃は平成25年夏時点での調査結果だが、全国で1,618校が実施している。行政支援なしの民間NPOとしては、少なからず成果を上げてきた。

U-ネット会員の方々も全国各地で、EMに理解ある先生などの協力を得て学校現場での環境学習が実践されていて、数々の活動が評価されている。しかし、EMによる



▲海にEMダンゴを投げ入れる秋田県大館市立長木小学校の児童たち

体系的な指導方法の浸透が行き届いていないので、指導する個々の知識・経験に違いがあり、指導内容の統一がなされていないのが現状である。

## 「今、自分ができること」を考え、実践できる児童・生徒の育成を

そこで、U-ネットでは、執行委員会で環境教育の充実推進を図る強化策を専門部会で検討することになった。

専門部会で検討される方々として、学校教育現場で校長等歴任されEMでの環境教育で定評の栃木県から大島



▲EMダンゴをつくる愛知県西尾市立西尾小学校の児童たち

から理事の工藤正義氏、北海道から高野雅樹氏の3人と地域での環境学習の実践者として数々の実績を持つ三重県からU-ネット理事・執行委員の小川敦司氏を選任し、今後の環境教育の進め方など改善策を練っていただいた。

そこで検討された改善策等を執行委員会でさらに練り、次の3案による環境教育の充実強化策が内定した。

### ①環境学習アドバイザー登録制の導入

地域において環境浄化NPOなどで学校や町内会等と連携して、プール・トイレ・校舎内の清掃、地域の河川湖沼浄化を実践指導し、環境問題に取り組んでいる方々や学校現場で教員として児童・生徒にEMを使用した環境教育に取り組んでいる方々などに活動しやすい体制を整える登録制度を導入する。

### ②環境学習支援のプレゼンテーション作成・提供

EM環境学習導入のためのプレゼンテーションを作成し、環境教育推進の歴史、法的根拠、EMの教育的効果など環境学習におけるEMの活用を体系的に学べる資料を学校等に提供し、EM活用の環境教育を促進する。

### ③環境学習アドバイザーに対する勉強会の開催

アドバイザーとして一定レベルの知識・技術の取得を目的とした研修会を年に数回ずつ開催し、率先垂範的な実践的アドバイザーと活躍が期待される人を育成する。

このような改善策を取り入れることにより、EMを環境学習のツールとして取り入れ、体験的に現在進行しつつ



▲プール清掃をする山梨県北杜市立白州中学校の生徒たち

ある地球規模の環境問題を認識し「今、自分ができること」を考え、実践できる児童・生徒の育成に寄与できるものと考えている。



# 「普段着のEM活用」で継続と成果を！

～ 第2回環境フォーラム「うつくしまEMパラダイス」開催 ～

取材／三上

2013年11月9日、福島市の福島県教育会館で第2回環境フォーラム「うつくしまEMパラダイス」(主催:U-ネット、後援:ふくしまFM、協賛:復興推進EM活用モデル事業参加38団体・NPOチェルノブイリへのかけはし)が開催され、300名超が参加した。

放射能と長期にわたり合う意志を確認した前回のフォーラムから、今回は一步踏み込み、震災以前の環境を取り戻す活動を今後も継続していくための、有用な成果や地に足の着いた考え方・試みなどが随所で示されたフォーラムとなった。

中でも、そのことを端的に示したのは、3年間にわたり積み重ねてきた現場活動の発表事例(5事例)であった。

## 継続散布によるEMの効果

EM活用による農業生産及び放射能対策に取り組む「限界突破」を体験したEM柴田農園(柴田和明代表・栃木県那須塩原市)、さらなる線量低下は難しいと思われた住宅地でのEM散布を続け成果を上げるEMとじょうろの会(久呉ますみ代表・いわき市)、乳質の指標のひとつである体細胞数の変化グラフを示しEM導入以前と以後の明らかな違いを紹介した瀧澤牧場(瀧澤昇司代表・南相馬市)は、いずれも継続によるEMの累積効果について触れた発表となった。中でも柴田氏は、「ある時期からEMを散布しても線量が下がらずジレンマに陥った。しかしそれでも続けると、再び線量が下がり始めた」と、EM散布を継続することの重要性に触れた。

## EMを楽しみながら

2013年、本格的にEMによる水稻栽培に取り組んだ馬場EM研究会(羽根田薫代表・南相馬市)、EM復興支援プロジェクトの一環として3年ぶりに旧警戒区域での水稻栽培を再開したコズモファーム(今泉智代表・田村市都路町)は、EMを継続していくための考え方に触れた。特に今泉氏は、「心と大地に花を植えています」をテーマに発表を行い、「EMが従来活用されてきた用途に徹し、結果として線量も低減している状況をもてもらいたいとの考えから、自宅を草花で美しく飾り、EM栽培の美味しい農産物を育て自然と共生した生活を楽しむことに方向転換した」と話し、EM活用を楽しむことが継続につながるとの考えを示した。

## 福島県内からの参加者が多数を占める

最後に、今フォーラムの大きな特徴をひとつあげておきたい。それは、福島県内からの参加者が大多数を占めたことだ。放射能の問題は依然大きく横たわる一方、それに立ち向かう住民も増えていることを感じさせた。高揚感に包まれた昨年とは打って変わり、会場内は終始、情報を聞き逃すまいとする真剣さと、志を一つにした一体感に包まれた。福島県からの参加者のひとは、「実は難しい話や立派な話を想像していたが、現場に即した内容で非常に役立った。普段着を着るように肩ひじ張らず気軽にEM活用を続ければよいのだとわかり、自信が湧いた」と話してくれた。

来年も同じ会場での第3回環境フォーラム開催が予定されている。さらなる次の1年、日常レベルでのEM活用の継続による成果が楽しみだ。



▲パネルディスカッションではベラルーシ共和国でのEMを投与したラット実験についての興味深い報告がなされた。